# ペット共生住宅のプロ育成

## 「犬と住まいる協会」設立

ペット共生住宅のプロを育成するため、不動産業者やエクステリア企業、ペット関連企業を会員とする「犬と住まいる協会」が発足した。ユニマットグループのユニマットリックが支援母体となり、理事長にペットマーケットコンサルティングを手がけるペイクの野中英樹社長が就任した。ペットと住まい産業の創造、拡大を図る。

2日に開いた設立発表会で、野中理事長は「20年間ペットと住まいについての事業を行ってきたが、ペットとの共生に十分な住宅を広めるためには、まだモノと人材が不足している。業界の垣根を越えて、人と犬が快適に住むための知識の向上やノウハウの共有・普及を図る」とあいさつした。

LIXILなどの住設・資材メーカーのほか、インテリア・リフォーム会社、エクステリアガーデン会社など21社がすでに会員となっている。

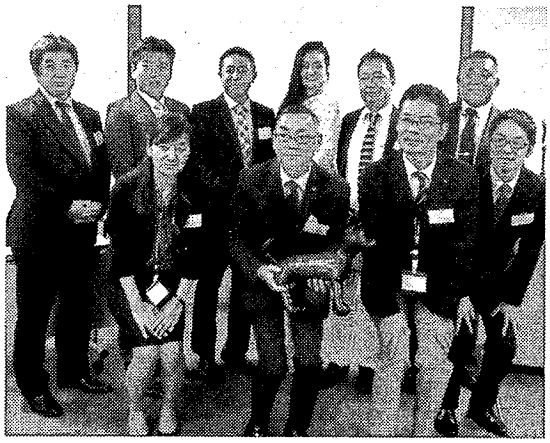
ペット可マンションの急速な普及などにより、市場は20年前の2倍以上の1兆5000億円規模に成長した。同協会は、今後も事業領域は拡大すると予測。協会活動を通じて、ペットとの新しい住まい方を提案する新商品・サービスの開発などを支援する。

具体的な活動としては、戸建て、集合住宅、エクステリア・ガーデン、ペットサロンの4つの専門部会を設立。情報交換や各社の事例発表などを行い、勉強会、セミナーなども活用してスキルアップを図る。

来年度からは、理事会で特徴、デザインなどの優位性を総合的に審査し、同協会が推奨する住宅などに対して「犬すま推奨マーク」を与える。「長期的には、同マークを与えた住宅の価値が、中古になった時にも下がらなくしたい」（野中理事長）として、認知度向上に務める。住宅だけでなく、商品やサービスについても適用する。

協会独自の認定資格試験「犬すまコーディネーター」も創設。動物愛護法などのペット概論や飼育管理など基本論を共通科目として、4部門それぞれに資格を付与する。今冬に開始する予定。

今後、初年度の会員数を100社、2年目は200社、3年目は500社を目指す。



各業界の専門家が理事やアドバイザーを務める（前列中央が野中理事長）

## 木材利用の耐火建築を紹介

### 森の循環推進協 横浜でフォーラム

森の循環推進協議会（菅沼等会長）はこのほど、横浜市内で同協議会フォーラムを開催した＝写真。

同協議会は、民間での「道志間伐活用4社協力会」から発展した。

メーンのパネルディスカッションを前に菅沼会長は「水源地の保全とともに森林のCO2吸収機能を正常化させ、森林資や木材利用法などを紹介し、参加した同協議会サポーターとも意見を交わした。

稲川清士・JR東日本建築設計事務所設計部担当部長は、自社で手掛けた大規模建築物の事例を発表。「耐火建築物に木材を利用した工法の国土交通省認定『1時間耐火構造』で、RCと同じ扱いが可能な鋼材を内臓する『木質ハイブリッド集成材』を使用している」と話した。併せて「工法の標準化」「コストの低減化」など同工法普及に向けて課題も指摘した。

林野庁木材産業課の赤羽元課長補佐と横浜市公共建築部の秋山雅英部長は「間伐材を活用した集成材を低コストで安定的に供給できる体制づくりに注力してきた」「公共建築物における木材利用の促進に関する方針を今年3月に策定した」と、これまでの取り組みを報告した。

## 駅前不動産屋 奮闘記

出口地所 出口和生

### 内臓の疲れ

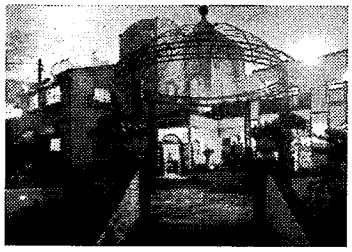
40歳を過ぎても現役のプロ野球投手だった工藤公康さん本によると、不調もしくはスランプの原因は「内臓の疲れ」だそうです。若くて筋肉質で立派な体をしていても、内臓が本来の働きをせず、胃痛や下痢や便秘などの症状を抱えている例は少なくないのではないかと思うのです。

胃腸をはじめ内臓が悲鳴を上げているのに、これに気づかないのは怠慢です。内臓の疲れが徐々に溜まってきて、もうこれ以上のムリは利かないといった年齢がちょうど40過ぎの頃。厄年の意味はそんなところにあるのかもしれません。

体全体の免疫力の7割を腸が持っていると読んだことがありますが、確かにそんな気もするのです。また各内臓がそれぞれ個別の意識を持っているらしく、自分の内臓にも静かに感謝する時間を持ちたいと思うのです。やる気や体力のなさも、たぶん内臓の疲れから来ているのではないでしょうか。野茂投手や工藤投手は、オフになると意図して食を抑

## 建築事務所にレストラン併設

### 三春情報センター



三春情報センター（横浜市港南区、春木磨碑露社長）は、レストランと建築事務所を組み合わせたサービスを始めた。横浜市栄区にイタリアンレストラン「リストランテ・デラカーサ＝写真」を開業し、2階にリフォームや注文住宅に対応する一級建築士事務所を設けた。食事のついでに気軽に立ち寄る住まいの相談所を目指す。

店名の「デラ・カーサ」はイタリア語で〝自家製〟や〝家庭的〟を意味し、南イタリアのリゾート地アマルフィの一軒家レストランをイメージ。地元の肉や野菜を使ったこだわりの料理が楽しめる。

建築事務所では毎週末無料の住宅セミナーを開く。レストランと建築事